袋高通信

あいのだより

'21 7月号
令和3年7月20日発行
通巻第181号
静岡県立袋井高等学校

PTA会長のことば

PTA会長　大澤　勇人

この度、令和3年度PTA会長を拝命いたしました大澤です。

皆様には、平素よりPTA活動に御理解御協力を賜り、誠にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、かれこれ続いておりますコロナ禍の中、人の行動と会話が大変な拘束を受けており、精神的に不安定な生活を余儀なくされています。

袋井市では、医療従事者、そして一般の高齢者のワクチン接種が進み、少しずつ、身近な生活環境の改善が進んでいると聞いておりますが、まだまだ昨年度同様、子どもたちは、コロナ禍の影響を受けつつも、前向きに、学校生活を送ることになろうかと思います。

我々PTA役員も、子どもたちが安全・安心な学校生活を送れるよう、教職員の方々と連携をとり、十分に配慮したPTA活動を進めていくよう尽力いたします。

また、教職員の方々と歴代のPTA役員の方々が築きあげられた、PTAの良い文化を途絶えさせぬよう、力を合わせ、この不安定な局面を前向きに乗り越えていきたいと思います。

さて、この度これを機にご紹介したいことがございます。もう退職なさっていますが、かつて13年間、袋井高校の教員として勤務された方から教えていただいた言葉がございます。

それは4つの言葉でまとめられています。

「教師に熱意がある」
「生徒が頑張る」
「保護者が理解する」
「地域が支える」

これが地域の学び舎としての殿堂の姿である。

袋井高校初代校長　河合九平先生のお言葉だそうです。

そして、袋井高校は今年で46年目、歴史を積み重ねてきました。

これまで多くの生徒がこの袋井高校を卒業し、それぞれの分野で活躍されています。歴史を積み重ねてきたからこそもう一つ、5つ目の言葉として、「同窓生が見ている」を加えたらどうか、ともおっしゃっていました。私も同感です。

私がいる職場では約570名が働いておりますが、そのうち袋井高校出身者は約1／3という高い比率を占めています。このようなことは珍しいのかもしれませんが、しかしながら、こういった同窓生がいる職場環境は、市内、県内において確実に増えていると思われます。

同窓の方々が多ければ、進学した時や社会に出た時、迎える方も迎えられる方も、きっと過ごしやすく、また働きやすい環境が整えられ、さらに、お互い同窓生が見ているからより頑張ろうという気持ちも湧き上がってくるのではないでしょうか。

「教師に熱意がある」
「生徒が頑張る」
「保護者が理解する」
「地域が支える」
「同窓生が見ている」

これが地域の学び舎としての殿堂の姿である。

私も袋井高校は、このようにあって欲しいと願っています。

最後に、私やPTA役員が一丸となって本活動をしっかりと盛り立てて参りますことと、皆様の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げ、私の就任の挨拶といたします。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

一年だより

学習時間の確保をしてください。

1学年主任　大石　真理

高校に入学したら課題が多すぎて追いつかない…とは、本校に限らず、毎年、どこの高校でも聞かれる言葉です。従って、教員同士で調整をしてみることもあります。しかし、あまり意味はないように思います。課題が減っても、結局それに取り組む学習時間が減れば、「追いつかない」という状況は変わらないからです。

本校1学年の学習時間、減っています！4月当初は平日平均102分、休日平均165分であったものが（これも少ないのですが）、6月は平日80分、休日135分です。もちろん、平日であっても2時間以上学習している人もいます。いわゆる二極化が起きているわけです。学習時間を確保できない生徒には、一体、どのような目標をもって高校生活に臨んでいるのかと、一人ひとりに問い詰めたくなります。

部活動のせいでしょうか？　いいえ、それは違います。このようなデータがあります。部活動が忙しすぎる、ということが問題になり、2019年に部活動ガイドラインが出され、活動時間が減少しています。しかし、自由に使える時間が増えたのに、学習時間は増えません。増えたのは、テレビ、スマホ・携帯、PC・タブレット、ゲームなどのメディア時間なのだそうです。（朝日新聞EduA　2021年3月23日より）

子どもたちはメディアに振り回されて、結局学習ができない。課題が出せないことを注意されると、課題が多くて追いつかないと言います。課題が「多い」のは、本人が確保している学習時間に対して「多い」のであって、学習時間をきちんと確保すればよいのだということを自覚していません。成績が下がると、部活が忙しいからだと言います。忙しいのは部活ではなくて、メディアに対応することなのだということに気づいていません。

少子化によって、今や大学は「希望すればとりあえずどこかに入学できる」状態になっています。であればこそ、生徒のみなさんには、豊富な知識と深い教養を磨くために、少しでも高い目標をもって進路を考えていただきたい。そう願ってやみません。

二年だより

九秒台から考える

2学年主任　杉浦　伸幸

まだまだ新型コロナは終息とはいえず、感染者数の下げ止まりの状態です。学校では、新しい生活様式を工夫を凝らして取り入れる日々が続いています。

二年生にとっては、人生初の文理分かれての年度スタート。新しい級友との出会いがありました。遠足では、久しぶりに遠出をし、楽しそうな生徒の笑顔が印象的でした。学習面では、新しい科目に戸惑いながら、懸命に毎日を過ごした四月。インターハイ予選では、女子弓道部団体が西部優勝。サッカー部が西部優勝、県ベスト8。男子バスケットボール部が一九年ぶりの県大会出場。陸上競技部が八種目で東海大会出場など、袋井高生が大活躍でした。中間テスト、「緑風祭」とその準備に大忙しの五月。「今年度しかできない緑風祭」をテーマに、今まで以上に生徒は頭を使い、全校が「チーム袋井」として能動的に活動しました。「緑風祭」をもって、多くの三年生が部活動を引退し、二年生が袋井高校の中心となる中で、悩みながらも一歩を踏み出した六月。期末テスト、模擬試験と現状の実力を分析し、今後の計画を具体化する夏休み直前の七月。1学期があっという間に終了しました。

まもなく東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定です。陸上競技では、日本人でも九秒台を記録を持つ選手が四人もいる男子百メートル走に注目が集まっています。なぜ、日本人として長い間破ることができなかった十秒の壁を、ここへ来てこんなにもあっさりと破ることができたのか。

さまざまな要因が考えられますが、ポイントは2つあると考えます。1つ目は、技術面。練習では、ただ走るのではなく、走路にスティック（棒のようなもの）を置くことで地面から最大のパワーをもらう感覚を明確化します。なんとなくではなく明確にです。不思議ですが、走路にスティックがある方が確実に速く走ることができるのです。二つ目は、「日本人は、これくらいだ」と思い込んで（レッテルを貼って）いたものをはがしたことです。これを剥がすことで、可能性が無限に広がったのだと思います。

お子様たちには、大きな夢（目標）とそれを実現する明確な目印が必要です。なんとなくではなく。

この夏休みで自己を見つめ、明確な今後のビジョンを持ちましょう。充実した夏休みが過ごせるようご家庭でもご指導をお願いします。

三年だより

飛躍の夏に

3学年主任　栗田　秀樹

常にコロナを心配しながら過ごした一学期でした。それでも県の警戒レベルでは、学校行事が可能な段階で、四月の茶摘み実習や遠足、六月の文化祭が実施できました。遠足はナガシマ・スパーランドへ。常にマスク、バス乗降のたびにプシュ、プシュ。しかし、みんな久しぶりのレクリエーションでとても楽しそうでした。六月の文化祭（緑風祭）は、一般公開がおこなえない中、クラス展示や文化部発表などに取り組みました。その様子を、配信動画でご覧になった方も多いと思います。密を避け換気を心がけながら、工夫を凝らして準備し、全力で表現しようとする姿が校内各所で見られました。クラス展では、教室内に実際に人が乗って回転するコーヒー・カップを作った36ＨＲが独創的でした。ステージでは、厳しい練習を重ねて見事なステージを完成させたダンス部が高い評価を受けました。その他にも、準備や練習の成果をいかんなく発揮した展示や発表が目白押しでした。二日目の夕方の後夜祭では、袋井高生の一体感と、緑風祭を完成させた充実感が満ちていました。インター・ハイ予選もおこなわれ、各部、各選手が活躍しました。ほとんどの競技が無観客で行われ、保護者でさえ観戦できない状況でした。しかし、陸上競技部が八種目で東海大会出場を決め、サッカー部と弓道部女子団体は、西部地区で優勝しました。次の大会に進めなくても、ずっと一緒に練習に取り組んだ友人との、かけがえのない思い出が得られました。

緑風祭を終えると、ほとんどの生徒が部活を引退します。そして受験に向かっていきます。放課後、校内の自習室で勉強する生徒が増えました。毎日の学習時間がグッと伸びてきています。勝負どころの夏休みをどう過ごすか、計画を立てています。一日家庭学習10時間を目標に勉強してもらいます。夏休みの期間に三者面談が予定されています。生徒と保護者とよく相談して、各自の進路目標を明確にする機会です。相談に乗ってやってください。受験はつらいですが、みんなで築いた一体感や充実感が支えになってくれると思います。目標に向かって邁進する夏休みを期待しています。　御支援、御協力、よろしくお願いします。

教務課より

教務課

梅雨の晴れ間の太陽に、夏の訪れを感じるようになりました。今年度は休校もなく（これが普通ですが…）無事一学期を終えることができそうです。しかし、昨年度ほどではありませんが、引き続き新型コロナウイルスの影響下での学校生活でした。

体育館での集会は、二学年までという制限があり、一年間以上全校生徒が揃った集会が行われていません。その代わり、ＺｏｏｍやＧｏｏｇｌｅ Ｍｅｅｔを使い、教室のプロジェクターで投影しての生放送をしています。当初はトラブルが発生することもありましたが、徐々に機器も揃い、教員の習熟度も上がって、最近では十分に使える状態になっています。これはコロナの数少ない恩恵かもしれません。また、「緑風祭」（文化祭）で一般公開を中止したのをはじめとして、いくつかの行事も中止や縮小を余儀なくされました。

部活動も依然として活動全開にはなっていません。運動部の試合は、制限がかかりつつも行われていますが、練習試合や合宿ができない状態が続いています。文化部についても、思うような練習や発表ができていません。

このように、現在の高校生は、数年前の高校生とはかなり違う高校生活を送っています。しかし、これは世界中の人たちも同じです。生徒の皆さんには、できないことを考えるのではなく、それぞれの目標に向かって、今の自分の状況でできることに全力で取り組んでほしいと思います。

これから夏休みを迎えます。一年生は二学期の文理選択に向け、自らの将来について考える時間を持ってください。御家庭でも、このことを話題にしていただければ幸いです。二年生は部活動の中心として活躍するとともに、「文武両道」を目指してください。夏休みは受験の天王山と言われます。三年生は体調を整えつつ、勝負の夏を乗り切ってください。

二学期の始業式は八月三一日です。全員で元気に二学期を始められることを期待しています。

（教務課長　河合　良訓）

2021年度 県内大学入試結果（静岡大学）

進路課

《全体概況》

：隔年現象崩れ、2年連続志願者減少　倍率：全体2.1倍（昨年度2.3倍）1.0倍台の倍率

人文社会―社会―前

前年の低倍率を見てか、今年は志願者が前年比140％と増加。高得点層は減少しているためボーダー得点率は72％のまま変動なし。新規実施の2次小論は、社会で課された問題はキーワードに関して論ずる単純なもの。小論増の影響なし。（ボーダー72％、2次52.5）

人文社会―経済―前後

前・後期ともに前年の低倍率の反動で激増。特に後期に関しては、2次逆転が難しい配点にもかかわらず、低得点層も急増するほどの人気。（ボーダー65％→68％、2次45.0→50.0）

教育―前後

前期：2次小論増の影響はなし。学部全体の志願者数は微減。理科、保健体育が前年の反動で全員合格、数学も全員合格。近年倍率1.0倍台で低迷していた英語が3.1倍に復活。後期：昨年度の反動もあり志願者大幅減。理科は後期でも全入状態。

工―前後

前期：前年の反動もあり志願者減少が予想されたが、リサーチ時よりも小幅な減少になった。前年最低倍率＋リサーチ時上位層中心に不人気傾向であった電気電子工で志願者増。機械工からの流入が増加した。前年高倍率の電子物質科学・化学バイオ工は志願者減、ボーダー4％ダウン。後期：前期同様に微減。前年高倍率＋リサーチ時ボーダートップの機械工・電気電子工は志願者減。

農―前後

前後期ともに志願者増。応用生命科学が前年低倍率の反動で増加した。大幅な難易度上昇とはならなかったが、ボーダー3％アップし70％。生物資源68％を抜いた。

工学部　一般選抜　大学入学共通テストにおける利用教科・科目

【全学科】理科：物・化　必須、数学：数Ⅱ・数B　必須

工学部　学校推薦型選抜　大学入学共通テストにおける利用教科・科目

【電気電子工学科】【電子物質科学科】理科：物・化　必須、数学：数Ⅱ・数B　必須

【化学バイオ工学科】【数理システム工学科】数学：数Ⅱ・数B　必須

2022年度入試の展望

大学志願者数は今後も減少し、「行きたい」大学を目指せるチャンスです。まずは知識・技能の養成が大事ですが、国公立大学を中心に主体性評価が進んでいますので、目的意識を持った進路選択をしなければいけません。大学進学への意識付けがより重要になっています。「行けそう」な大学ではなく「行きたい」大学へ。次回は静岡県立大学の予定です。（進路課長　原田　卓彦）

1学期を振り返って

生徒課

今、現在も新型コロナウィルスの不安を抱えながら生活をしている状態です。また、これからも新しい生活様式を取り入れながら、注意をして過ごしていくこととなるでしょう。この状況の中でも、ただ待つのではなく、生徒は自ら何が出来るのかを考え、動き出すことを願っています。

さて、そういった一学期も終わり、長期の夏季休業に入ります。1学期を振り返ってみて、どういう学期になっているでしょうか。

学校行事の柱である「緑風祭」は、生徒会執行部を中心に、新型コロナウィルスに対応し、三密を避ける工夫を講じ、従来とは異なる形での開催を実施することが出来ました。今年度は「煌耀」をテーマに、制限をされた中でも生徒がそれぞれの立場で新しい企画や展示内容を考え、積極的に参加し、充実した時間を共有できたのではないかと思います。三年生は、毎年この「緑風祭」を境に、受験モードに突入していきます。その様子を下級生もよく見ておいてほしいと思います。

また頭髪・服装に関しては、ほとんどの生徒は大きな問題もなく、袋井高生としての品位を保っており、2学期もこの状態を保って欲しいと思います。一方、自転車の乗り方については、携帯電話を使用しながらや音楽を聞きながらの運転、並進や一時不停止といった違反行為が見られるなど、交通安全マナーの改善がなされていないことは本校の大きな課題になっています。交通事故の報告も数件ありました。幸い、命に関わるような大きな事故ではありませんでしたが、一つ間違えれば大きな事故に繋がりかねないものもありました。御家庭においても「命の大切さ」の観点から、交通安全教育を行っていただきたいと思います。まだまだ、校外での生活には不安はあるものの、学校における学習や部活動、また、生徒会活動では生徒たちに健全性を感じます。現状に満足せず、袋井高校生としてのプライドをもって生活してもらいたいと思います。

終業式には、「夏季休業中の諸注意」が配布されますので、よく読んで長期にわたる生活を充実した期間にしてください。

（生徒課長　榊原　英裕）